



【青森県立青森高等学校 進路通信】

白堊はくあ 第5号 令和2年8月25日発行



7/18・19 学力向上セミナーを実施しました

本校は県教育委員会より「医師を志す高校生支援事業」の拠点校に指定されています。その事業のひとつとして医学科志望者を対象に医学科総合選抜入試などで行われる、ワークショップや小論文および志望理由書作成の演習や、入試で出題される英語・国語の学科の演習を行う「学力向上セミナー」を毎年開催しています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催が危ぶまれましたが、様々対策を施しながら7/18・19の2日間実施しました。本校生徒に加えて、青森東高校・青森南高校・田名部高校・青森山田高校の生徒も加わり、総勢107人が3教室に分かれて学習しました。



3年ワークショップ演習の様子



講義の様子

7/25 第1回最難関大学志望者合同進学合宿を実施しました

本校生徒に加え、八戸高校・弘前高校・八戸北高校の最難関大学志望者（2年生）を対象とした「第1回最難関大学志望者合同進学合宿」を実施しました。本来であれば、各校の生徒が集まり、対話やグループ活動をして学びを深めていく予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響のため各校においてリモート講義により交流を図りました。



リモート講義の様子

進路志望大学について考えよう

①「大学とはどのような場所か」

大学とは研究機関です。研究とは探究を重ねながら最先端を見つけること、つまり学問の力で既知の領域を広げる（知を生み出す）ことです。言い換えると、世の中で分かっていないこと、解き明かされていないことを学問の力で解き明かしていく場所です。

最初は調べて答えを出すことを繰り返し（調査・実験）、わかることとわからないことの仕分けを重ね（検証）、最終的に知の最先端に到着する。このように学問の積み重ねをもとにし、既知の領域を広げていくというのが、研究をする人の本来の立場です。

「大学で学ぶことの価値とは、すでにある知を身につけることではなく、これまで誰も見たことのない知を生み出すための知を身につけること」。つまり、大学は「知」を生み出す場だということです。

②「研究機関である大学はどのような人を求めているのか」

最も大切な資質は「学力」です。いくら意識が高くても学力が伴わない生徒を求めはしません。確かな「学力」を有した上で、研究テーマを持っていて、そのテーマをしっかりと語れる人が大学に期待される人物です。つまり、「自分は●●という分野に興味があり、その中で○○がわかっていないので、このわかっていない領域を学問の力で切り拓きたい！」と考える人が求められます。これらの肝となってくるのが「自己と学問との接続」であり、その基礎・土台となるのが高校生活における日々の授業になります。

③「大学での計画を立てる」

①なぜその学部・学科を選んだのか（学部・学科の選択理由）

②なぜその大学を選んだのか（大学の選択理由）

① ②を踏まえて、大学で何を学び、どのような問いを解き明かしたいのかを考えてみましょう。この問いはあなた自身が生きてきた足跡に由来します。あなた自身が学校の授業や課外活動を通して様々な教科・分野・フィールドワークを経験し、その世界に身を浸し、アンテナの感度を高めていくと、探究の種（問い）が見つかります。探究は、自分が興味のあることを突き詰める側面もあれば、世界の人々を豊かにするために行われる側面も持ち合わせているものです。こういう話に興味がある、こういうことに疑問を抱いた、こういうところが気になる。そうしたものを掘り下げ、磨き上げ、この大学ならそれが達成できそうだという見通しを立て、大学生活での学びの計画を立ててみましょう。

大学は「知」を生み出す場



(尹庭 崇「Concept Walk」(<http://web.sfc.keio.ac.jp/~iba/sb/log/eid75.html>) をもとに作成)

